

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通科目	学部等 共通科目	専門科目	合計		
文学部	日本語日本文学科	夜・通信	8		19	27	13	
	歴史文化学科	夜・通信			18	26	13	
	英語グローバル学科	夜・通信			12	20	13	
	心理・社会福祉学科	夜・通信			14	22	13	
教育学部	教育学科	夜・通信			14	22	13	
心理・社会福祉学部	心理学科	夜・通信			20	28	13	
	社会福祉学科	夜・通信			20	28	13	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	夜・通信			19	27	13	
	スポーツマネジメント学科	夜・通信			19	27	13	
生活環境学部	生活環境学科	夜・通信			20	28	13	
	情報メディア学科	夜・通信			12	20	13	
社会情報学部	社会情報学科	夜・通信			16	24	13	
食物栄養科学部	食物栄養学科	夜・通信			16	24	13	
	食創造科学科	夜・通信			15	23	13	
建築学部	建築学科	夜・通信			20	28	13	

	景観建築学科	夜・通信	8		16	24	13	
音楽学部	演奏学科	夜・通信			17	25	13	
	応用音楽学科	夜・通信			16	24	13	
薬学部	薬学科	夜・通信			18	26	19	
	健康生命薬科学科	夜・通信			16	24	13	
環境共生学部	環境共生学科	夜・通信			6	14	13	
看護学部	看護学科	夜・通信			17	25	13	
経営学部	経営学科	夜・通信			14	22	13	
(備考)								
文学部英語文化学科は令和5年度より英語グローバル学科へ名称変更。								
文学部心理・社会福祉学科及び生活環境学部情報メディア学科は学生募集停止のため、2025年度に在籍する学生は4年生のみである。従前の教育課程に基づいて、文学部心理・社会福祉学科は、過年度開講科目が6単位、生活環境学部情報メディア学科は、過年度開講科目が12単位あり、2025年度開講科目及び共通教育科目と合計すると、省令で定める基準単位数を満たす。								
環境共生学部環境共生学科は令和7年度に新設。完成年度を迎えていないため、次年度以降開講科目が2単位あり、2025年度開講科目及び共通教育科目と合計すると、省令で定める基準単位数を満たす。またシラバスは1年次科目のみ添付している。								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/course/pdf/daigakujitumu.pdf
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

武庫川学院ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/j/files/pdf/index/corporate-officer.pdf
--

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和7年度定時評議員 会終結時(令和7年6 月23日)～令和11 年度定時評議員会終結 時(日付詳細未定)	会社経営経験に基づく 法人運営への助言、卒業 生連携、国際交流促進
非常勤	弁護士	令和7年度定時評議員 会終結時(令和7年6 月23日)～令和11 年度定時評議員会終結 時(日付詳細未定)	経営企画及び私立学校 法関連法令
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
〈シラバス作成過程〉 前年度 8月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始 10月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼 12月 学長より各学科長にシラバス点検依頼（予告） 11月～1月 各教員シラバス作成 1月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼 2月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出 3月 教育支援システムでシラバス閲覧可能 当年度 4月 ホームページで公表	
授業計画書の公表方法	ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2025/syl_2025.htm 教育支援システム （在籍学生はログインし、シラバスメニューを選択することで授業計画の検索が可能となる。）
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し、周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況（授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など）を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価基準に基づき、信頼性及び公平性を確保した厳正な成績評価がおこなわれている。GPAは予め設定した算出方法により算出し、成績証明書や父母等宛て成績通知書に記載している。また学生が、自らの学業成績の状況を的確に把握し、適切な履修計画とそれに基づく学習への取組みに役立つように、教育支援システム(Web)でGPAに基づいた学科内順位やクラス内順位を本人に開示している。それにより、相対的な学力の状況を学生自身が確認できる。GPA算出方法は紙媒体(Student Guide 2025)及びホームページで公表している。また、令和元年度前期の成績から「科目別成績結果一覧」により、得点分布状況をホームページで公表している。 $\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目}^{\ast} \text{ のグレード・ポイント} \times \text{単位数}) \text{ の総和}}{\text{履修登録した科目}^{\ast} \text{ の単位数の総和}}$ ※ 履修登録した科目には、不合格科目も含む。卒業非算入科目はGPA対象外(ただし、資格課程科目はGPAの対象となる)。 これらの取組みは、全学部同様の取扱いで行われている。 添付資料「成績の分布状況を示す資料」	
客観的な指標の算出方法の公表方法	Student Guide 2025- <i>For Academic Studies</i> - (大学) Student Guide 2025 -For Academic Studies 武庫川女子大学 (mukogawa-u.ac.jp) ホームページ：成績評価 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades01 ホームページ：成績情報の公表 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades03
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性・善美な情操・高雅な徳性”をそなえた自ら考え動く人材を育成するため、以下の知識・姿勢・行動を人材育成方針「MUKOGAWA COMPASS」として定めています。本学の定める修業年限以上在学し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく各学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を満たした者に対し、卒業を認定し学士の学位を授与します。

知識	1	多様化・複雑化する社会を理解する力
	2	“生きること”につながる専門性
姿勢	3	自他を尊重する姿勢
	4	失敗を恐れず挑戦する姿勢
	5	逆境や困難に対応するしなやかな姿勢
行動	6	論理的に考え伝える力
	7	新たな価値を創造する力
	8	多様な人々と協働する力

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/pdf/university/policy/university_policy.pdf

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
財産目録	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
事業報告書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		
中長期計画(名称:	対象年度:	)
公表方法:		

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法:	https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html
-------	---

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:	https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html
-------	---

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部		
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）		
（概要） 文学部は、人間の本質と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。 日本語日本文学科は、日本語日本文学の教育研究を通じて、健全な社会の構築と発展に寄与することのできる、有為な女性を養成することを目的とする。 歴史文化学科は、現代日本の社会が歴史的に形成されてきたことを理解した上で、多元的な歴史認識に立って未来社会を創造する有為な女性を養成することを目的とする。 英語グローバル学科は、英語英米文化文学の教育研究を通して、言語や文化、文学を深く理解し、自文化のみならず異文化の優れた理解者として、実践的に英語を使って国際社会で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《日本語日本文学科》 武庫川女子大学文学部日本語日本文学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（日本語日本文学）の学位を授与します。		
知識	1	人間文化に関する知識を体系的に修得するとともに、複雑化する社会に対応できる語学力や ICT スキル、データリテラシーを身に付けている。
	2	日本語や日本文学に関する専門的知識を修得し、それらを生涯にわたって活用していく意志を持っている。
姿勢	3	多くの議論を経験する中で、他者の意見を尊重しつつも自分の意見を明確に伝え、より高次の解決策を模索する姿勢を身に付けている。
	4	探究心を持ち、多くの学修課題にねばり強く取り組む経験を通じて、目標に向かって挑戦し続けることの大切さを認識している。
	5	課題解決のために他者と助けあい補いあう経験を通じて、多様な解決策の存在に気づき、柔軟な姿勢を身に付けている。
行動	6	学修を通じて論理的・批判的に考え、判断する力が身に付いており、自らの想いを言語化して他者にわかりやすく伝える表現力を備えている。
	7	学修を通じて身に付けた知識や高度なリテラシーを活用して物事を深く理解した上で、そこに自分独自の考えを付加し、新たな価値の創造に寄与できる。
	8	学修を通じて身に付けたコミュニケーション能力と他者理解の力を活かして、共生社会の中で多様な人々と協働することができる。

《歴史文化学科》

武庫川女子大学文学部歴史文化学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（歴史文化学）の学位を授与します。

知識	1	複雑、かつ変容速度の速い現代社会を理解し、対応できる基礎的な知識、デジタル能力を含む汎用的な技能といった基盤のリテラシーを有している。
	2	社会を理解し、自らの意見を持って主体的に活動するために必要な専門的知識と技能を有している。
姿勢	3	自ら、およびすべての人々が個人として尊重されるべき存在であることを理解したうえで、未来の社会の構築に積極的に関わっていく熱意と責任感を身につけている。
	4	より良い社会と生活の構築を目指すなかで、試行錯誤を繰り返しながら生涯にわたって学び、活動し続ける姿勢を身につけている。
	5	社会生活を送るなかで経験するさまざまな困難に対応するために、自らにとってより適切な方向へ踏み出すしなやかな姿勢を身につけている。
行動	6	収集した情報・記録の正確な分析をもとに、批判的思考力および創造的能力を備えている。
	7	複雑、かつ変容速度の速い現代社会における課題の解決と新たな価値を創出するため、多様な情報を収集・分析して考え、活用することができる。
	8	多様な人々が互いを尊重し共生できる社会の構築を目指し、歴史・文化に関わる人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。

《英語グローバル学科》

武庫川女子大学文学部英語グローバル学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（英語グローバル学）の学位を授与します。

知識	1-1	実践的な英語によるコミュニケーションを理解し、効果的に発信するための知識を有している。
	1-2	専門分野の英語を理解し、英語で発信するための知識を有している。
	1-3	国際人として必要なコンピュタリテラシーを有している。
	2-1	英語の構造や英語によるコミュニケーションに関して専門的な知識を有している。
	2-2	異文化理解や多文化共生に関して専門的な知識を有している。
	2-3	ICTを利用して専門的な情報を収集し、発信するための知識を有している。
姿勢	3	国際社会において、自らとは異なる多様な意見や立場を理解して行動しようとする姿勢を有している。

行動	4	自らの学びに基づいてグローバルな視点から主体的に判断し、さまざまな社会課題に挑戦しようとする姿勢を有している。
	5	国内外の諸問題に対して高い関心を持ち、試練や難局に直面しても前向きに取り組む柔軟な姿勢を有している。
	6	自律的な探究によって自分の考えを論理的に組み立て、他者に伝えることができる。
	7	幅広い教養と深い専門知識に基づいて、社会課題の解決や新たな価値の構築に向けて情報を収集し、統合的・発展的に表現することができる。
	8	多様な人々と積極的に協働し、地域・企業・団体・学校などにおける社会的活動に貢献することができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《日本語日本文学科》

武庫川女子大学文学部日本語日本文学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科が開講するカリキュラムは、専門的学修の基盤となる「基礎教育科目」と専門的知識・技能を段階的に高めていく「専門教育科目」を2つの柱として編成します。学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。

「基礎教育科目」は、「初期演習」「漢文入門」「言語文化活動演習」など、高等学校までの学修内容を踏まえて大学での専門的学修へ円滑に移行していくための科目「日本語表現入門」「文章表現演習」などの日本語表現技術を習得する科目、実践的な情報機器（ICT）活用技能を身に付ける「情報リテラシー」、語学力向上のための「Oral Communication」「TOEIC 認定英語」によって構成します。

「専門教育科目」は、1年次の「日本語学概論」「古典文学概論」「近代文学概論」から4年次の「卒業論文（卒業制作）」まで、本学科の中核となる専門的な科目を段階的に配当します。領域としては、日本語学、古典文学と近現代文学、漢文学、日本文化や書道、国語科教育および日本語教育、人文情報学など幅広く、学生はそれぞれに関連づけながら学びます。ピアラーニングやアクティブラーニングなども取り入れ、学生が積極的に学び、発信する姿勢を養います。特に3・4年次の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、学生が自らの意志で選択した専門領域に即して主体的・能動的に学び、それぞれの知識を体系的に定着・深化させ、学びの集大成として卒業論文や卒業制作に取り組みます。

「基礎教育科目」および「専門教育科目」各科目の系統的な学修によって、日本語・日本文学・日本文化に関する広範な知識を修得し、実践的な日本語表現技術と論理的に考え伝える力を身につけ、課題発見能力と問題解決能力を獲得していきます。また、新たな価値を創造する力を高めます。さらに、4つの演習科目群では、自他を尊重する姿勢・失敗を恐れず挑戦する姿勢・逆境や困難に対応するしなやかな姿勢を涵養するとともに、多様な人々と協働する力を高めることを狙いとしています。

《歴史文化学科》

武庫川女子大学文学部歴史文化学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科が開講する科目は、専門的学修の基礎となる「基礎教育科目」と専門的知識・技能を段階的に高めてゆく「専門教育科目」を2つの柱として構成します。

「基礎教育科目」は、「歴史文化資料論」「歴史文化フィールドワーク基礎」など高等学校までの学修内容を踏まえながら大学での専門的学修へ円滑に移行していく科目、および「文化・歴史研究と情報」など実践的な課題への対応を目的とする科目によって構成します。

「専門教育科目」は、全体を「歴史文化研究の基礎」「歴史文化の諸相」「歴史文化の応用と展開」「研究と実践」「言語とキャリア」の5つの部門に分ち、基礎から実践までを体系的かつ順次的に学べるようにします。1年次の「日本史概説」「人文地理学」「文化人類学概説」「女性史概説」などから4年次の「卒業論文」まで、本学科の中核となる専門学修を段階的に配当する一方で、「日本の祭礼 春夏秋冬」「食の文化誌」「装いの日本文化」など、文化事象のうちの個別具体的なことがらを取り出して詳しく体験的に学ぶ科目を配置します。カリキュラムを構成する領域は、古代から現代に至る歴史学、地理学、文化人類学、民俗学、言語生活、文化史、女性史などであり、学生はそれぞれ関連付けながら学ぶことで知識と関心の幅を広げます。3・4年次の「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」では、学生が自らの意思で選択した専門領域に即して主体的・能動的に学び、それぞれの知識を定着・深化させ、歴史・文化を体系的に把握します。

技能・表現に関する科目では、現物史資料の取り扱いを双方向的な授業形態で行い、学生が主体的に学び、発信する姿勢を養います。「地域文化研究」と「地域文化フィールドワーク（Ⅰ～Ⅱ）」は近隣の自治体と連携を図りながら阪神間また兵庫・近畿地方を対象として学習・臨地調査を行い、調査結果を発信してゆくものです。それらの成果がすべて「卒業論文」に結集されます。

「基礎教育科目」および「専門教育科目」の系統的な学修を通して、日本史および隣接領域に関する広範な知識・技能を修得し、実践的な歴史的思考を身につけ、課題発見能力、問題解決能力を獲得します。

上記の学科が開講する「基礎教育科目」と「専門教育科目」に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては、「共通教育科目」で補完します。

《英語グローバル学科》

武庫川女子大学文学部英語グローバル学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科は、アメリカ分校（MUSC）と連携し、グローバルな英語教育と人材育成を展開します。本学科ではすべての学生が、全員参加のMUSCでの4ヶ月の留学（レギュラープログラム）と、希望者が参加するMUSCでの更なる4ヶ月の留学（エクステンションプログラム）を通し、実践的な英語力と異文化の理解を高められるカリキュラムを提供します。

【英語文化専攻】

本専攻は、英語力の向上とともに、人文学の広く深い学びの経験を通して、異文化理解力と言語コミュニケーション力を備えた総合的人間力を涵養します。

基礎教育科目は、高度な英語運用能力を養う科目で構成されています。1・2年次では、英語の「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を磨きます。3・4年次では、2年次前期のMUSC留学で鍛えた発信力を中心に、英語の実践的運用能力を強化します。

専門教育科目は、「英語文学」「英語学」「英語教育学」の3つの専門領域とそれらをつなぐ「異文化理解」の4つの科目群、および英語による表現力を伸ばす科目で構成されています。1年次は、導入的科目を通して異文化理解に関する知識と理論を身につけ、留学での実践的学びに備えます。2年次後期および3・4年次は、4つの科目群から履修し、各自の関心に沿った専門的な学びを深めます。同時に、3・4年次には、各専門領域のゼミに所属し、卒業論文を作成します。

また、英語上級者認定プログラム（Advanced Course in English:ACE）では、原則英語による授業を4年間履修することによって、より高度な英語運用能力の修得を目指します。

【グローバル・コミュニケーション専攻】

本専攻は、「豊かな知識」と「実践的な英語力」の修得を通して、国際社会で活躍できるグローバル市民の幅広い資質を涵養します。

基礎教育科目は、実践的な英語コミュニケーション力を養う科目を中心に構成されています。1・2年次では、英語基礎科目やMUSC 留学などを通して、英語力の基礎を固めます。また、2年次から4年次にかけて、「Advanced Global English Courses」でプレゼン力・交渉力など、実践本位の英語力を磨きます。

専門教育科目は、「コア科目群」、「グローバル・スタディズ科目群」、「ビジネスコミュニケーション科目群」、およびキャリア設計科目を中心に構成されています。1・2年次は、異文化間コミュニケーション・多文化共生等の「コア科目群」に取り組むとともに、様々な地域言語への造詣を深めます。さらに、キャリア設計科目や「2年次演習」で、専門的な学びに備えます。3・4年次には、「グローバル・スタディズ科目群」と「ビジネスコミュニケーション科目群」を通して、より高い専門性と幅広い教養を身につけます。同時に各専門領域のゼミに所属し、卒業論文を作成します。

また、「グローバル特殊講義」では、グローバル・コミュニケーションに関する極めて専門的な知識の修得を目指します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

日本語日本文学科

武庫川女子大学文学部日本語日本文学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、日本語日本文学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	高等学校等で現代文、古文を十分に学び、外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系とも幅広く学習して基礎的な学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	本学科での学修を通して得た専門的知識と読解力、思考力・判断力、表現力を活かして、高いコミュニケーション能力を有する職業人としてさまざまな分野で活躍し、社会に貢献しようという意志を持っている。

歴史文化学科

武庫川女子大学文学部歴史文化学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、歴史文化学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	高等学校等で日本史、地理分野を十分に学び、外国語にも一定の知識と関心を持ち、文系・理系分野も幅広く学習して基礎的な学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	社会の諸課題に対して自分の意見を持ち、主体的に活動する姿勢・態度を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	本学科で得た専門的能力を、豊かな感性をもとに公平な視点を持って多様な人々と協働するために活かすことへの意欲を有している。

英語グローバル学科

武庫川女子大学文学部英語グローバル学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。	
知識	社会を理解し、英語グローバル学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	大学入学までに学んだ英語をはじめ、その他の教科の知識を活用することができる。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	英語を使って、地域ならびに国際社会の発展に貢献したいという熱意を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな感性と広い視野を持ち、多様な人々と共に学び成長したいという熱意を有している。

学部等名 教育学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）

(概要) 教育学部教育学科は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。 この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要) 《教育学科》 武庫川女子大学教育学部教育学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（教育学）の学位を授与します。		
知識	1	教育・保育を支える基礎的な知識、汎用的な技能、デジタル社会に対応できる基盤的リテラシーを有している。
	2	教育・保育の実践を行うために必要となる基本的な知識、技能および倫理観などの専門性を有している。
姿勢	3	自らの存在価値を認め、すべての人々が個人として尊重されるべき存在であるという理解に基づいた教育・保育活動ができる。
	4	教育・保育に関して、試行錯誤を繰り返しながら生涯にわたり学び、研究し続ける姿勢を身につけている。
	5	自らの理想とする教育・保育観を明確に持ち、それをもとにして、逆境や困難に粘り強く対応する姿勢を身につけている。
行動	6	教育・保育に関して、根拠を基にした論理的な思考ができ、自分の考えを相手にわかりやすく伝える力を有している。
	7	教育・保育に関する課題解決と新たな価値の創出に向けて、情報を収集し、整理・分析して統合的・発展的に考えることができる。
	8	互いを尊重し共生していける社会を目指して、多様な人々と積極的に連携・協働することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要) 《教育学科》 武庫川女子大学教育学部教育学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 1. 本学科は、学生が幅広い教養と奥深い専門的な知識に基づく思考力や判断力を養い、教育・保育実践のために必要な姿勢と行動を身につけることをめざします。 2. 「小学校教育コース」、「小学校中学校教育コース」、「乳幼児教育コース」という3つのコースを設け、まず「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」に区分します。「専門教育科目」では「共生教育」を軸に「教育研究」「教育学・心理学」「MUSC」「教育実践」科目群、コースごとの「学校教育基礎」「小学校教科教育」「中学校国語科教育」「中学校英語科教育」「乳幼児教育基礎」「幼児教育」「保育」科目群、副免許・資格プログラムとして「小学校教育プログラム」「特別支援教育プログラム」「幼児教育プログラム」「保育士プログラム」などからなる教育課程を編成します。		

3. 教育方法については、教育課程全般を通じてアクティブ・ラーニング等を活用し学生の理解を深め、実践力を高めます。
4. 教育課程の評価については、卒業研究および教員免許に係る実践演習科目における学修状況をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

専門教育科目の中でも「共生教育」科目群は、本学部本学科の全ての基礎となる科目です。

1年次から4年次を通して開講される「教育研究」科目群は、問題や課題を解決する力とともに、学生が自ら調べ、考え、まとめ、表現する能力を養う科目群です。

1年次に開講される「初年次コース共通科目」は、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。

そして、2年次から所属する3つのコースには、基礎免許を取得し、実践力を高めるための科目群をそれぞれ配します。小学校、中学校あるいは幼稚園教諭としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法に基づいた科目を中心に構成します。

また、副免許・資格を取得するための「副免許・資格プログラム」として、小学校教育コースには「幼児教育プログラム」と「特別支援教育プログラム」を、乳幼児教育コースには「保育士プログラム」と「小学校教育プログラム」を設け、教育職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた科目を履修できるようにします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html)

（概要）

武庫川女子大学教育学部教育学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、教育学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	高等学校等での各教科ほかの学びを基盤としつつ、様々な知識を活用する力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	教師や保育者として子どものすこやかな成長・発達に貢献したいという熱意を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな感性と公平な視点を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を有している。

学部等名 心理・社会福祉学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)

(概要)

心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない (leave no one behind) 世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

心理学科は、自身の理想を探究・追求し、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献することを目指して、心理学の諸領域における専門的知識と方法論を習得するとともに、個人・社会的問題および学術的課題を主体的に発見し、その解決過程を他者と協働しながら実践的に学ぶことによって、課題発見力と実践力を身につけ、多様な課題に想像力と柔軟性をもって取り組むことができる人材を養成することを目的とする。

社会福祉学科は、一人ひとりの個性とその人らしく生きる権利を尊重し、支援を必要としている人たちと共に自らも、さらには地域や社会もエンパワメントしていけるよう、グローバルな社会の一員としてさまざまな領域で活躍することを目指し、人間中心社会の理念を理解し、持続可能な包摂的社会の実現に向け地域市民として、また福祉専門職として、他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求し、社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題の解決に向けて実践することができる人材を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

(概要)

《心理学科》

武庫川女子大学心理・社会福祉学部心理学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し、学士（心理学）の学位を授与します。

知識	1	人間の心理や行動を科学的に捉えることができる。
	2-1	心理学に関する専門的知識を有している。
	2-2	心理学の方法論を理解している。
姿勢	3	多様性を踏まえ、自他を尊重したコミュニケーションを図るための基礎的能力を有している。
	4	主体的に課題解決に取り組むために、粘り強く自身の考えを提示する能力を有している。
	5	困難に対応するために、収集・分析した情報に基づいて、視野を広げて課題解決に取り組むことができる。
行動	6	多角的に情報を収集・分析し、論理的に説明することができる。
	7	課題を発見しその課題の解決策を立案できる。
	8	他者と協働／協力することができる。

《社会福祉学科》

武庫川女子大学心理・社会福祉部社会福祉学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（社会福祉学）の学位を授与します。

知識	1	基礎的な知識や汎用的な技能に加えて、デジタル社会における基礎的リテラシーを身につける必要があることから、それらの知識や技能などを総合的に活用する力を有している。
	2	グローバル化する社会状況を踏まえ、多様な人々がそれぞれの価値観を尊重して生きていく社会を築くための社会福祉学に関する基礎的・専門的知識を有している。
姿勢	3	自他ともに個人として尊重されるべき存在として理解することにより、自己の強みを認識しつつ、円滑な人間関係を構築する。さらにそれを維持しながら多様な人々と協働することができる。
	4	失敗を恐れず挑戦する姿勢を身につけるため、倫理的ジレンマを捉えつつ、問題に対する新たな解決策を立案し、粘り強く且つ主体的に取り組むことができる。
	5	複雑化する社会で暮らす一員として、逆境や困難に対して他者と協働・信頼関係を構築し、助け合うことができる。自らの役割を見出しこころもからだも健康に、暮らしやすい社会の実現に向けて行動することができる。
行動	6	自らの考えを表現したいという欲求を常にもち、情報を多角的に収集し、客観的に根拠に基づく論理的・批判的な思考を得ることができる。同時に自らの考えを他者に伝えられるコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力も有することができる。
	7	自らの考えを他者に伝えるコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を有している。その際、柔軟な発想や視点の転換により、新たな価値を自ら生みだすことができる。
	8	社会の多様性、異質性にしなやかな姿勢で謙虚に向き合い、対話をとおして多様な人々と協働できる。互いの価値観を認め、信頼関係を構築するために、“Cool head but warm heart（冷静な頭脳と温かい心）”をもって社会的な課題に立ち向かうことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《心理学科》

武庫川女子大学心理・社会福祉学部心理学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

心理学の諸領域における専門的知識と方法論を主体的に習得できるよう、「基礎教育科目」では、学びの基礎となる知識を習得するための科目を1年次に編成します。「専門教育科目」では、心理学に関する専門的知識を幅広く習得するための科目を配置し、高学年次には、自ら課題を発見し、問題解決に取り組む科目を設置し、社会で活躍するための実践力を高めます。「共通教育科目」では、「基礎教育科目」や「専門教育科目」で習得した知識や能力を、心理学を超えた幅広い分野で活用するための素養を涵養する科目を配置します。

「専門教育科目」は、「コア」、「臨床系」、「実用系」および「研究系」に区分し学生が自ら重点目標を定め、学ぶことができるよう科目を配置します。「コア」は、心理学の基礎的な知識を学ぶ科目により編成します。「コア」で学んだ基礎的な知識を、「臨床系」、「実用系」、「研究系」それぞれの科目へ発展させます。「臨床系」では、臨床現場での実

務に関する知識と技能を習得するための科目を配置します。「実用系」では、より実践的な専門知識とスキルを習得させる科目を配置します。「研究系」では、心理学における研究方法やデータ解析に関する知識とスキルを習得させます。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業研究に結実させます。

なお、本学科では、公認心理師の国家試験受験資格として大学で必要な科目を修得することができる教育課程を編成します。また、所定の授業科目を修得することで、認定心理士資格および社会調査士資格の申請が可能になる教育課程を編成します。

《社会福祉学科》

武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

1. 専門的な価値・知識及び方法論を体系的に学ぶために、基礎教育科目、専門教育科目を学科科目として設置します。自らの専門領域や分野だけでなく、幅広く関心ある科目を履修して国際的、学際的な視点を養うことを推進します。
2. 学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。
3. 論理的思考力、問題解決力、コミュニケーション能力、課題探求力、表現能力など、現社会において必要となる社会人基礎力を習得し、人の個性とその人らしく生きる権利を尊重しながら新たなコミュニティを築く能力を育成するために、全学年で実践的な講義や演習を実施します。
4. 修得した知識やスキルを活用し、問題解決に向けて新たな提案をするなど、想像力を持って創造的に考え行動できる能力を育成するために、卒業論文を必修として、社会的意義がある論文作成を行います。
5. 所定の授業科目を修得することで、社会福祉士および精神保健福祉士の国家試験受験資格を取得することができる教育課程を編成し、国及び地方公共団体の福祉職をはじめとして福祉専門職として活躍できる実践力やソーシャルビジネスを起業できる気概を養います。
6. 教育課程では、講義のみならず、個別発表やグループディスカッション、実践的演習及び実習といった教育方法を活用し、主体的な学修を通じた理解を高めます。
7. 教育課程における学修の評価については、卒業年次に提出する卒業論文、3年次に実施される卒業論文中間報告会と卒業年次に実施される卒業論文最終審査会での発表内容および質疑応答をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

心理学科

武庫川女子大学心理・社会福祉学部心理学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、心理学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	文系・理系という狭い枠にとらわれず、高等学校等での各教科をできる限り幅広く履修し、確かな基礎知識を備えている。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	人を支援することに高いモチベーションを有し、心理的支援を行う専門職や、心理学の知識を活かした職業を目指すことや、これらに必要な資質や能力を高めることによって、社会の一員としての自覚を持ち、人びとの幸福に貢献しようとする意欲を有している。

社会福祉学科

武庫川女子大学心理・社会福祉学部社会福祉学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。	
知識	社会を理解し、社会福祉学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	より良い社会の実現に向けた社会を希求するため、社会福祉学に関する知識を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	自己の内省に努め、誠実な姿勢で人間理解に努める力を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	課題を自ら発見し、積極的に前向きな行動力を有している。

学部等名	健康・スポーツ科学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）	
（概要）	健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。 健康・スポーツ科学部は、科学的知識に裏づけられた体育・スポーツの研究とその実践を通して、心身の健康並びに体力の保持増進について指導者的役割を担う、幅広い分野の

健康・スポーツに関わる指導者、保健体育に関わる教育者を養成することを目的とする。スポーツマネジメント学科は、健康スポーツ科学の優れた知見と実践を広く学び、多角的な視点からスポーツマネジメントやビジネスに対する理解を深め、多様な社会的課題の解決やダイバーシティの推進に資するマネジメント力と創造性を有する女性を育成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《健康・スポーツ科学科》

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（健康・スポーツ科学）の学位を授与します。

知識	1	健康・スポーツに関する基礎的・専門的知識を体系的に修得し、汎用的な情報収集・発信スキルと、多様なリテラシーを有している。
	2	健康・スポーツを実践・指導するための基本的・専門的スキルを修得し、健康・スポーツの専門性を磨き続ける力を有している。
姿勢	3	属性や状況に関係なく自己と他者を尊重できる高い倫理観に基づいて健康・スポーツを実践する柔軟性と関係性を有している。
	4	健康・スポーツの実践・指導において、失敗を臆せず挑戦し続け、試行錯誤を繰り返し目標達成へ向かう姿勢を身につけている。
	5	健康・スポーツの実践・指導において、直面する困難に対して状況に応じた臨機応変で柔軟な判断ができる姿勢を有している。
行動	6	健康・スポーツの実践・指導において、問題を解決する論理的な思考を他者に明確に伝える力を有している。
	7	専門分野を捉える広い視野と柔軟な発想を持ち、健康・スポーツの実践・指導における新たな価値を生み出す力を有している。
	8	情感あふれる会話を通して健康・スポーツの実践・指導に関わる多様な役割の人々と連携・協働する力を有している。

《スポーツマネジメント学科》

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を備えた者に対して、卒業を認定し学士（スポーツマネジメント学）の学位を授与します。

知識	1	複雑に変化するスポーツマネジメントに対応できる基礎的な知識、汎用的な技能、デジタル社会における基盤的リテラシーを有している。
	2	スポーツマネジメントおよび健康・スポーツに関する基礎知識から専門的知識を幅広く有している。
姿勢	3	自ら存在価値を認め、全ての人が個人として尊重されるべき存在であることを理解したうえで、スポーツマネジメントに関わる熱意と責任感を身につけている。
	4	スポーツマネジメントをめぐる諸課題の解決に向け、試行錯誤を繰り返しながら挑戦する姿勢を身につけている。

	5	スポーツの現場におけるさまざまな困難に対応するために、自身にとって適切な方向へ踏み出すしなやかな姿勢を身につけている。	
行動	6	スポーツマネジメントの諸課題の解決に向け、情報を多角的に収集し、論理的・批判的な思考ができる。また、導き出した考えを構造化し第三者に伝えることができる。	
	7	高度な倫理観に基づき、主体的に人々の生活の豊かさと社会の発展に貢献できるスポーツの価値を創造する熱意と能力を身につけている。	
	8	多様な人々が互いを尊重し共生していける社会を目指し、スポーツとそのマネジメントに関わる人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。	
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）			
（概要） 《健康・スポーツ科学科》 武庫川女子大学健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 健康・スポーツに関わる実践者・指導者・管理者に必要な基礎理論と技術を講義・演習科目で学び、それに基づく技能を学内実習科目で磨き、最終的には学外の現場実習科目で応用するという、段階的・発展的な学習ができる科目配置を行います。また、健康・スポーツに関する知識と技能を体系的に学修するために、健康・スポーツ科学に関する知識と技能を専門的に学修するための「学科専門教育科目」と、スポーツ科学を体系的に学ぶために「学部共通専門教育科目」を設定します。学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。 「学科専門教育科目」では、アスレティックトレーナー養成に関わる科目群、より高度な教員養成に関わる科目群、競技スポーツの指導に関わる科目群を設け、健康・スポーツ科学領域において高度な専門的理解や実践力の獲得を目指します。 「学部共通専門教育科目」では、健康・スポーツ科学を学ぶ者に共通して必要となる、基礎的・専門的知識および技能を身につけることができます。 ①スポーツ教育領域科目群を履修することにより、中学・高等学校保健体育科教員を目指す者に必要な、体育授業を实践できるための基礎的な理論と技術を身につけることができます。 ②スポーツパフォーマンス領域科目群を履修することにより、ジュニアスポーツのコーチを目指す者に必要な、競技力向上のための優れたコーチングとトレーニング指導、スポーツ傷害・外傷予防の理論と技術を身につけることができます。 ③健康スポーツ領域科目群を履修することにより、健康運動指導士や健康運動実践指導者を目指す者に必要な、スポーツ、運動、身体活動を通じた健康支援の理論と技術を身につけることができます。 本学科は、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目における「知識」「姿勢」「行動」の枠組みで示した資質・能力についての評価および卒業研究によってディプロマ・ポリシー達成の評価を総括的に行います。			

《スポーツマネジメント学科》

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科は、スポーツ関連企業や団体、地域社会や学校等のスポーツマネジメント領域で活躍する優れた経営管理者、スポーツ実務者、スポーツ指導者に求められる最新のスポーツマネジメント理論やスポーツマーケティング理論等を体系的に学修するとともに、科学的なスポーツ指導論や医科学理論も踏まえた、現代的なスポーツマネジメントの実践やスポーツ指導法を学ぶことができます。

多様化・複雑化するスポーツマネジメントに関わる経営管理者、スポーツ実務者、スポーツ指導者に必要な基礎理論と実践的知識を講義・演習科目で学び、それらに基づく技能を学内実習科目で身につけ、最終的に学外のスポーツマネジメント実践との連携により高度化するという、段階的・形成的な学修ができるよう教育課程を編成しています。また、スポーツマネジメントに関する知識と技能を専門的に学修するために学科開講科目には「学科専門教育科目」を設け、またスポーツ科学を体系的に学ぶために「学部共通専門教育科目」を設定しています。学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。

「学科専門教育科目」では、スポーツマネジメント基礎論に関連した科目群、スポーツマネジメント実践論に関連した科目群、経営学の基礎理論に関連した科目群を設け、多様なスポーツマネジメント領域での活躍を目指す学生に必要な基礎的理論の理解や応用実践力の獲得、経営・企画・販売等の専門的理論と技能の習得を目指します。

「学部共通専門教育科目」では、健康・スポーツ科学を学ぶ者に共通して必要となる、基礎的・専門的知識および技能を身につけることができ、中学・高等学校保健体育科教員やジュニアスポーツ指導員、健康運動指導士・健康運動実践指導者などの資格取得が可能となります。

本学科では、以上の教育課程全般において積極的にアクティブラーニングを取り入れて能動的に学修する態度を養い、各科目における「知識」「姿勢」「行動」の枠組み示した能力・資質についての評価および卒業研究によってディプロマ・ポリシー達成の評価を総括的にを行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

健康・スポーツ科学科

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部健康・スポーツ科学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWACOMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識

社会を理解し、健康・スポーツ科学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。

	高等学校等での各教科等の学びや健康・スポーツに関する経験知を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	健康・スポーツ科学分野のリーダーとして、子どもの健やかな成長・発達と、全ての人々の生活の質の向上に貢献したいという熱意を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな感性と高い倫理観を持ち、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有している。

スポーツマネジメント学科

武庫川女子大学健康・スポーツ科学部スポーツマネジメント学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。	
知識	社会を理解し、スポーツ科学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	高等学校等での各教科等の学びや健康・スポーツに関する経験知を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	スポーツマネジメントの分野において、全ての人々にスポーツの持つ多様な価値を伝えたいという熱意を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな感性と高い倫理観を持ち、多様な人々と協働して主体的に学ぶ態度を有している。

学部等名 生活環境学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)

(概要) 生活環境学部生活環境学科は、衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的能力を持った有為な女性を育成することを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要) 《生活環境学科》 武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し、学士（生活環境学）の学位を授与します。		
知識	1	生活環境に関わる事象を多面的に捉え、分析する知識を有している。
	2	生活環境に関わる事象に対して、文化的・社会的な観点からの専門的知識、快適で健全な生活環境を形作するための、科学的・工学的な専門知識、および生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。
姿勢	3	他者を尊重し、理解しようとする態度を身につけている。
	4	生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能、および、問題の解決につなげることのできる技能を有している。
	5	生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。
行動	6	新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力と表現力を身につけている。
	7	新たな課題に対する、創造的能力と表現力を身につけている。
	8	社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要) 《生活環境学科》 武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 私たちを取り巻くモノや状況である生活環境は、最も身体に近い衣服から、生活用品、インテリア、住居・建築物、街・都市へと広がっています。これらを対象に、1年次では、生活環境を基礎から広く学びます。1年後期から衣環境・アパレル領域、生活文化・デザイン領域、住環境・まちづくり領域の3領域から1つの領域を選択して専門的な学びを深めます。 学ぶ内容は、文系・理系・造形系に広く及びます。座学だけではなく、演習・実習・実験という主体的な学修方法を通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。3年後期からは		

研究室に配属し、学びの集大成としての卒業研究に取り組みます。

「衣環境・アパレル領域」

衣服について、品質と社会的役割の両方から学び、持続可能なアパレルの未来を提案する力を養います。快適・安全・健康な衣環境と、地球環境や社会に配慮したファッションが求められていることから、社会や文化との関係への理解、環境や役割に適した素材の知識、デザインのための技術を修得します。

「生活文化・デザイン領域」

パッケージ、印刷物、家具、雑貨、照明、ショップ、カフェ、レストラン、住宅など、生活を豊かにする「モノ」と「空間」を、調査・企画・デザイン・プレゼンテーションする力を養います。また、「モノ」と「空間」をバラバラにデザインするのではなく、「ひと」と「モノ」と「空間」の関係をデザインしていくことで、3者が互いに密接な関係性を有していることを歴史的・社会的・実践的に理解していきます。デザインによって生活の質の向上を提案する能力を身につけ、卒業後に幅広いデザイン領域で活躍できる人材を育成することを目指します。

「住環境・まちづくり領域」

身近な室内空間から、生活の基盤となる住宅、日々の生活を支える建築や都市空間までを連続した住環境ととらえ、暮らしを豊かにする空間デザインの歴史や思想、技術を修得します。住む人らしさを表現し、環境に配慮した住空間の設計と、人とまちがつながるまちづくりのしくみや手法を実践的に修得します。

学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

武庫川女子大学生活環境学部生活環境学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、生活環境学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	身の回りにあり生活を形づくるものごとを、連続した生活環境として捉え、広い視野を持って学ぶための思考力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	生活環境に関して、文化的・社会的・科学的・工学的・造形的な観点からの基礎的・専門的な知識を習得しようとする姿勢を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	生活環境を構成する事象に対し、定量的・論理的・創造的なアプローチから学び、生活環境における課題を発見・分析し、その解決策・改善策を提案し、社会に還元しようとする意欲を有している。

学部等名 社会情報学部		
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)		
(概要) 社会情報学部社会情報学科は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかになく発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html)		
(概要) 《社会情報学科》 武庫川女子大学社会情報学部社会情報学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124 単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（社会情報学）の学位を授与します。		
知識	1	社会の事象を社会科学・情報科学・データサイエンスの視点から理解するために必要な知識と思考力を有している。
	2	ICT 社会を生き抜くために、ソーシャルネットワークを活用するためのコミュニケーションやプレゼンテーションに関する技術、情報を加工・分析するための技術、社会における様々なデータを収集し、数理的なアプローチからデータを分析する技術を有している。
姿勢	3	高度に情報化された社会の中で、自分を尊重するとともに、相手の存在価値を認めていく姿勢を身につけている。
	4	ICT 社会の課題解決に向けて、試行錯誤を繰り返しながら次の一歩を踏み出し、生涯にわたって自分のキャリアを開拓しつつ、学ぶ姿勢を身につけている。
	5	目の前に出現したさまざまな困難を乗り越えていくために、冷静にかつ柔軟に物事をとらえることができるしなやかな姿勢を身につけている。
行動	6	社会科学・情報科学・データサイエンスの観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT 社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力と伝える力を有している。
	7	文理にわたる専門的知識・技術の統合を図り、ICT 社会において、新しい価値を創出できる能力を修得している。
	8	ICT 社会における課題を自ら発見し、他人との協働を通して解決しようとする積極的な態度を修得している。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html)		
(概要) 《社会情報学科》 武庫川女子大学社会情報学部社会情報学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 本学科のカリキュラムでは、以下に示す科目分類を設け、体系的かつバランスのとれた教		

育課程を編成し、個々の授業を通じて学生の資質・能力を高めます。

1. 共通教育科目

幅広い教養と的確な判断力を養うとともに、心の豊かな人間性の涵養を図ることを目的とした全学共通教育科目を、学生は自らの選択のもと、主体的に学びます。また、総合大学の特長を活かし、様々な専門分野を背景に持つ学生同士が、答えの無い課題に取り組む授業を展開します。

2. 基礎教育科目

専門教育への導入的役割を担う授業を開講します。全学的に実施している「初期演習」では、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につける他、学生相互の豊かで円滑な人間関係の基礎を養います。「初期演習」以外の科目では、専門分野の学びの基礎となる知識の修得と倫理感を育成する教育を行います。

3. 専門教育科目

専門教育科目は、「社会科学系」と「情報科学系」「データサイエンス系」を軸に編成されています。情報メディア専攻では、社会科学系の科目を中心に、ICT社会について、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの視点から学ぶとともに、ICT社会を、コンピュータ、プログラミングなどの情報科学と、統計学、AIなどのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していきます。情報サイエンス専攻では、情報科学系の科目を中心に、ICT社会の仕組みやICTに関する知識や技能を学ぶとともに、ICT社会を、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの社会科学と、統計学、AIなどのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していきます。両専攻ともに、専門教育科目で学んだ知識、技術を統合していくために、「卒業研究」を必修科目として4年次に配置します。

教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで科目間の順次性・体系性を担保します。また、開講科目に設定される知識と技術を修得し、それらを活用するための能力を育成するために、授業の形態は講義だけにとどまらず、学生を能動的な姿勢に導く教育手法を活用します。

各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、あらかじめ評価指標を明示し、適切・公正な評価を実施します。また、卒業研究において学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ）

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html

（概要）

武庫川女子大学社会情報学部社会情報学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、社会情報学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	文系・理系という枠にとらわれず、高等学校等において幅広い教科・科目を履修し、確かな基礎知識を備えている。
	ICT社会におけるデータの活用や情報技術に多角的な視点から興味や関心を持ち、社会への深い洞察力と多様なメディアを使いこなす技能を習得する能力の基盤を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。

	情報化社会の健全な発展に貢献したいという意欲を持っている。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな感性と公平な視点を持ち、多様な人々と協働して学ぶ態度を有している。

学部等名 食物栄養科学部		
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）		
（概要） 食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。 食物栄養学科は、食物栄養の分野にとどまらず、公衆衛生学、臨床医学、栄養学、栄養教育、臨床栄養学、公衆栄養学分野等の専門的な知識と技術を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、管理栄養士として必要とされる実践的指導力、高い意欲と創造性を身につけることを目的とする。 食創造科学科は、初年次よりキャリア意識を育みながら、栄養士関連科目を修得して専門性を高め3年次後期には全員に食産業界企業へのインターンシップ参加を義務づける。在学中の就業体験を通じて、実践的な知識を深め、人間形成・キャリア形成を図り、次世代の食産業界を牽引する女性人材の輩出を目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《食物栄養学科》 武庫川女子大学食物栄養科学部食物栄養学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124 単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（食物栄養学）の学位を授与します。		
知識	1	幅広い教養と共に、言語能力や基礎的情報リテラシーなど、汎用的能力を身につけている。
	2	個人や集団を対象とする栄養学、食べ物と健康との関係について、高度な専門的知識と技能を身につけている。
姿勢	3	自ら存在価値を認め、栄養学に関わる熱意と責任感をもって研究を実施できる。食・栄養を通して人々の健康の維持増進・疾病予防、治療に貢献することができる。
	4	栄養学に関する研究者として自立して研究活動を行う、あるいは専門的業務に従事するために研究し続ける姿勢を身につけている。
	5	日々発展、進歩する健康栄養問題を解決するしなやかな姿勢を身につけている。
行動	6	科学的根拠に基づく健康・栄養課題解決のために、健康や栄養・食に関する高度かつ専門的な情報を自ら収集し、発表する能力を身につけている。
	7	国際的視野に基づいて、自ら課題を見つけ、解決するための研究デザインを構築する能力を身につけている。

	8	病院、福祉施設、企業、行政等などの組織において、指導者として必要なコミュニケーション能力を身につけている。
《食創造科学科》 武庫川女子大学食物栄養科学部食創造科学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の能力・資質を備えた者に対し、卒業を認定し学士(食創造科学)の学位を授与します。		
知識	1	生物、化学、語学に関する大学生レベルの基礎的な知識、汎用的な技能、デジタル社会に対応できる基礎的リテラシーを有している。
	2	食品学および栄養学に関する基本的な専門的知識、および、食品成分とその機能性に関する高度な専門的知識を身につけている。
姿勢	3	食産業界の動向に関心を持ち、自分の意志を明確に持ちながら、他者と協調・協働して食産業界の発展に貢献する態度を身につけている。
	4	食産業界の課題や食品の企画・開発・研究において、専門的知識を活かして考え、実践的に挑戦する姿勢を身につけている。
	5	食産業界の課題に対して、専門的知識を活かして考え、問題を解決する態度を身につけている。
行動	6	食品成分の機能性や安全性を科学的に思考・判断する能力と、収集した情報を的確に伝えるプレゼンテーション能力を身につけている。
	7	食品に関する専門的知識・技術を統合する能力を身につけ、新たな企画・開発・研究の計画立案に必要な創造力を身につけている。
	8	食産業界で通用する実用的なマーケティング手法を用いて、関連分野の人々とコミュニケーションを取れる能力を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
（概要） 《食物栄養学科》 武庫川女子大学食物栄養科学部食物栄養学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 学士授与水準に定めた能力を持ち、管理栄養士として問題解決能力および実践的能力を修得することを目標とします。 〈知識〉 ①管理栄養士に求められる専門知識の習得に必要な基礎力を養成するために、『基礎教育科目』として主に1年次に配置します。 ②栄養学を体系的に学ぶためのコアとなる『専門教育科目』は、「専門基礎分野」「専門分野」に分け、系統的にステップアップ式に配置します。 ③管理栄養士として必要な高度な専門能力を習得するための科目は、『サポート科目』として配置します。 〈姿勢・行動〉 ①管理栄養士に求められる態度や志向性を身に付けるために、初年次の導入教育として「初期演習」「食物栄養科学概論」「管理栄養士論」を配置します。		

- ②講義科目に対応する多くの実習・実験・演習科目を配置し、理解を深め、汎用的技術の習得を促します。
- ③管理栄養士に求められる専門性を高めながら実践力を身につける「臨地実習」は、3年次と4年次に配置します。
- ④管理栄養士に求められる社会での多様な課題解決能力を備えるため、4年次には、「管理栄養総合演習Ⅰ」「管理栄養総合演習Ⅱ」「卒業論文」を配置します。

上記の学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能の修得に関しては「共通教育科目」で補完します。

《食創造科学科》

武庫川女子大学食物栄養科学部食創造科学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

学士授与水準に定めた能力を持ち、栄養の専門性をもち、あらゆる人々の健康と幸福のために、食産業に革新的・創造的な製品やサービスを創造する実践的能力および問題解決能力を修得することを目標とします。

1) 共通教育科目は、幅広い教養と的確な判断力を養うとともに、心の豊かな人間性の涵養を図ることを目的とした授業を受講させ、学生は自らの選択のもと、主体的に学びます。

2) 基礎教育科目は、栄養の専門知識の習得に必要な基礎知識への理解を図ることを目標に配置します。

3) 専門教育科目は、栄養士養成のため厚生労働省によって定められている科目を配置し、さらに「フードマネジメントスタディーズ」と「フードイノベーションスタディーズ」を設けます。

4) 希望者を対象に、グローバル企業の職場でも通用できる語学力と栄養士としての知識と実践力の両方を兼ね備えた人材を育成することを目標とした短期グローバルフード研修、およびグローバルフード研修プログラムを配置します。

上記の教育課程全般を通じて講義、実験・実習、演習ならびにインターンシップを組み合わせた授業を展開し、学生の理解を高めます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

食物栄養学科

武庫川女子大学食物栄養科学部食物栄養学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識

社会を理解し、食物栄養学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。

自然科学の基礎知識を十分に学習し、高等学校等において幅広い教科・科目を履修して確かな基礎知識を備えている。

姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	高いモチベーションを有し、高度な問題解決能力および実践的能力を身につけた管理栄養士となって、生活習慣病等の発症予防・重症化予防と健康増進に貢献しようとする意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	高いコミュニケーション能力を有し、チームのリーダー的管理栄養士となって、生活習慣病等の発症予防・重症化予防と健康増進に貢献しようという意志を持っている。

食創造科学科

武庫川女子大学食物栄養科学部食創造科学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。	
知識	社会を理解し、食創造科学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	自然科学の基礎知識に加え、高等学校等で学習する幅広い基礎学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	高度な問題解決能力と実践的能力を身につけた「食の専門家」として、食産業界の発展に貢献しようとする意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	豊かな発想と高いコミュニケーション能力を活かして、新しい食を創造し、人々の豊かで健康的な食生活に貢献しようという意志を有している。

学部等名 建築学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf

(概要)		
建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。 建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応した世界基準の学びを通して培うことを目的とする。 景観建築学科は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要)		
《建築学科》		
武庫川女子大学建築学部建築学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、「立学の精神」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（建築学）の学位を授与します。 A 高い知性：高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培っている。 B 善美な情操：「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的・「歴史」的・「文化」的価値を理解し、グローバルな視点から地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培っている。 C 高雅な特性：地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、グローバルな視点を持って自律的に行動する「人格」を理解している。 D 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合：「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培っている。 「MUKOGAWA COMPASS」に対応した具体的な資質・能力の内容は以下の通りです。		
知識	A-1	語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。
	A-2	構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培っている。
	A-3	機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって最適な空間を構成する基礎的能力を培っている。
	A-4	コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。
	B-1	基礎的造形能力を培っている。
	B-2	歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を修得し、グローバルな価値観を培っている。
姿勢	C	社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、グローバルな視点から自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。

行動	A-1	語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。
	D-1	「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培っている。
	D-2	様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解している。
《景観建築学科》 武庫川女子大学建築学部景観建築学科では、大学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、「立学の精神」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（景観建築学）の学位を授与します。 A 高い知性：高い「理性」により、「強」や「用」を含む「真」の視点から建築・景観的事象を理解するための高度な「知識」を修得し、さらに修得した「知識」を応用して問題を解決する基礎的能力を培っている。 B 善美な情操：「感性」豊かな個性を、関連する「知識」や実践的「創作」活動により磨き、地域の「美」的・「歴史」的・「文化」的価値を理解し、自然との共生の視点から地域の伝統的文化を創生できる基礎的能力を培っている。 C 高雅な特性：地球環境・国家・地域社会において真に人間的な住環境を創生するために、社会的義務と責任を重んじ、自然との共生の視点を持って自律的に行動する「人格」を理解している。 D 高い知性、善美な情操、高雅な徳性の総合：「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培っている。 「MUKOGAWA COMPASS」に対応した具体的な資質・能力の内容は以下の通りです。		
知識	A-1	語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。
	A-2	構造や諸災害などに対する安全性を「強」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって空間的に構成する基礎的能力を培っている。
	A-3	機能性や環境負荷などに関する快適性を「用」として理解し、その基礎的技術を積極的に吸収し、演習によって最適な空間を構成する基礎的能力を培っている。
	A-4	コスト、スケジュールなど様々な制約条件を理解し、これらのもとで、適切な設計・施工計画を進められる基礎的能力を培っている。
	B-1	基礎的造形能力を培っている。
	B-2	歴史、文化、国際社会、地球環境を理解する基礎的知識を修得し、グローバルな価値観を培っている。
姿勢	C	社会の仕組みや現代社会の問題点を理解する能力と継続的に学習できる能力を培い、グローバルな視点から自律的活動ができる職能人としての素養を理解している。
行動	A-1	語学や諸学の基礎学力の修得、及び自らの主張を社会に提案し、合意を形成できる基礎的能力を培っている。
	D-1	「真」「善」「美」で極めた精神世界を統合し、住環境という実在するモノの世界に具体的に実現する基礎的能力を培っている。

	D- 2	様々な専門家、技術者との共同の重要性を理解している。	
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）			
（概要） 《建築学科》 武庫川女子大学建築学部建築学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 5年以上の建築教育を要求する UNESCO-UIA 建築教育憲章に対応するため、大学院建築学専攻修士課程と連続し、スタジオ教育を中心とした6年一貫の教育課程とします。このうち学士課程においては、学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。 基礎教育科目は、初期演習と建築を学ぶ上で基礎となる語学および数学・物理を学ぶ科目によって構成します。 専門教育科目は、演習科目・理論科目・フィールドワーク科目によって構成します。 演習科目は、UNESCO-UIA 建築教育憲章が定める一対一の対話型演習に相当するスタジオ型の建築設計教育であり、カリキュラムの中核をなします。修士課程のインターンシップ科目・演習科目とあわせ、6年間を通して全授業時間の半分以上を占めます。また4年後期には、卒業研究（卒業設計・卒業論文）に取り組みます。 理論科目は、建築学の幅広い専門知識を学ぶ講義および実験・実習科目からなり、一級建築士受験資格の学歴要件に定められている建築学の全分野を網羅します。 フィールドワーク科目は、演習科目および理論科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、実践的な力を養う学外実習です。 演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、理論科目においては、講義、小テスト、実験・実習、レポート、フィールドワーク科目においては、建築物・町並み・工事現場の見学、教員の説明、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。 また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。 《景観建築学科》 武庫川女子大学建築学部景観建築学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。			

建築から自然との共生、景観映像情報技術までをも対象とする景観建築学の幅広い学びを、建築と公園、都市などの広域の住環境をともに対象とした建築・景観設計として統合する、スタジオ教育を中心とした教育課程とします。学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。これにより、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。

基礎教育科目は、初期演習と景観建築学を学ぶ上で基礎となる語学・数学・物理・生態学を学ぶ科目によって構成します。

専門教育科目は、演習科目・講義科目・実習科目によって構成します。

演習科目は、建築設計と景観設計を統合的に教育するスタジオ型の建築・景観設計教育であり、カリキュラムの中核をなします。4年後期には、卒業研究（卒業設計・卒業論文）に取り組みます。

講義科目は、景観建築学にかかわる幅広い専門知識を学ぶ科目からなり、一級建築士受験資格の学歴要件に定められている建築学の全分野を網羅するだけでなく、公園や都市などの広域の住環境に関わる専門知識も学びます。

実習科目は、演習科目・講義科目と連携した科目として、建築・景観設計において求められる緑化の知識や技術を学ぶ学内実習としての植物・緑化実習と、演習科目および講義科目で学習した知識や技術をより具体的に理解し、実践的な力を養う学外実習としての景観建築フィールドワークによって構成します。

演習科目においては、教員の説明、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、講義科目においては、講義、小テスト、実習科目においては、建築物・庭園・町並み・工事現場の見学、教員の説明、植物・緑化実習、講演会への参加、レポートといった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。

また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

建築学科

武庫川女子大学建築学部建築学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識

社会を理解し、建築学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。

自然科学はもとより、人文科学、社会科学も幅広く学習し、高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。

姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	グローバル社会に貢献できる国際的通用性を備えた建築設計技術者を目指す意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、世界水準の建築教育を通して培うことへの意欲を有している。

景観建築学科

武庫川女子大学建築学部景観建築学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。	
知識	社会を理解し、景観建築学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	自然科学はもとより、人文科学、社会科学も幅広く学習し、高等学校卒業レベルの基礎学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	自然と共生する社会に貢献できる建築・景観設計技術者を目指す意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	安全で、使いやすく、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を、自然との共生や景観映像情報技術の幅広い学びを通して培うことへの意欲を有している。

学部等名	音楽学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)	
（概要）	音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。 演奏学科は、音楽演奏を通して、豊かな人間性と幅広い教養、高い専門知識・技術を養い、演奏家、指導者として文化・社会の発展に寄与する有為な女性を養成することを目的とする。

とする。

応用音楽学科は、豊かな人間性と幅広い教養、音楽専門知識・技術に基づく音楽の応用によって、地域・社会の活性化及び人間の心身の健康の維持・安定に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《演奏学科》

武庫川女子大学音楽学部演奏学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（音楽）の学位を授与します。

知識	1	社会で必要とされる音楽の専門知識と技能、またデジタルスキルや語学を含む一般教養を活用する能力を有している。
	2	音楽に関する幅広い知識と、音楽に携わる上で必要な語学能力を有し、専門実技において高度な技術と豊かな表現力を習得している。
姿勢	3	自らの存在に価値を見出し、また他者のさまざまな個性や音楽表現について柔軟に思考できる寛容性を有している。
	4	生涯にわたる音楽活動において、向上心を持って研究と自己研鑽に励み、豊かな社会をつくるために貢献する能力を有している。
	5	音楽とかかわる人生の中での困難や悩みを自己の成長へと転換できるしなやかな姿勢を有している。
行動	6	多岐にわたる音楽理論等の専門的知識を有し、指導者・教育者として不可欠な指導法を習得している。
	7	演奏に自らの成長に伴う進化を反映させ、各自の個性との融合により一つの音楽を作り上げるアンサンブル能力を有している。
	8	音楽の表現者・指導者としての責任感や倫理観を持ち、さまざまな感性を持つ音楽関係者をはじめ社会において必要なコミュニケーション能力を有している。

《応用音楽学科》

武庫川女子大学音楽学部応用音楽学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（応用音楽）の学位を授与します。

知識	1	音楽を通して人と社会に貢献するために必要な知識と技能、またデジタルスキルや語学を含む一般教養を活用する能力を有している。
	2	音楽知識と技能、ならびに音楽を活用するための幅広い分野の知識を有している。
姿勢	3	自らの存在に価値を見出し、また多様な人々を尊重する心と社会全般への興味・関心を持ち、音楽の在り方を考える姿勢を身につけている。
	4	音楽を通して社会に貢献するために自らが進む道を開拓していく姿勢と、生涯にわたり研究と自己研鑽を続ける力を有している。

	5	音楽を通して社会に関わる中で出会う逆境や困難を自己の成長へと転換できるしなやかな姿勢を有している。
行動	6	様々な情報を統合し、客観的に問題提起および音楽に基づく解決策を提案できる。
	7	医療・福祉・教育・音楽産業をはじめ社会の各分野において求められていることを判断し、音楽を通して新たな価値を創出することができる。
	8	音楽と社会をつなぐ上でのコミュニケーション能力を有し、適切な倫理観のもとで、自らの役割を果たすことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《演奏学科》

武庫川女子大学音楽学部演奏学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

知性と豊かな個性を兼ね備えた社会に有為な演奏家や音楽教育者の育成を目指すため、専門実技関連科目を軸に科目を設定します。基礎教育科目では、音楽分野はもとより社会全般で求められる基礎的な英語力と情報スキルの習得を目標とします。併せて西洋音楽の研究において不可欠な外国語の履修を必須とします。専門教育科目では、主専実技の演奏能力の向上を図るとともに、アンサンブルや音楽指導に必要な合唱・合奏・音楽史を含む多種の音楽理論や副専実技などを体系的・段階的に設定します。共通教育科目では、学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能を修得できます。

講義や演習科目の予習・復習をはじめ、実技科目では演奏技能向上に向けた自主練習を行うよう、また、日頃から演奏会の鑑賞等によって常に音楽に触れるよう指導します。評価については科目によって異なりますが、学期末試験および授業中の小テスト・レポートその他も含めた総合評価を取り入れ、特に実技においては複数の教員の総合評価の平均を評価点として公正を期します。

1 年次… 主専実技の基本技術を伸ばし、音楽を学ぶ上で基礎となるソルフェージュや和声法・音楽史・合唱などの導入教育を行います。

2 年次… 主専実技はレベルの高い課題になり、指揮法・即興演奏・伴奏法などを学び、多角的に専門性を養います。演習科目において音楽芸術の専門的研究を深め、表現・活用するための論理的思考力・コミュニケーション能力の向上を図ります。

3 年次… 主専実技はレパートリーを増やしていきます。専門領域に関連した知識・技能を身につけるために楽曲研究・電子楽器・邦楽・室内楽など幅広い演習科目を設定します。

4 年次… 4 年間の学習の集大成ともいえる卒業演奏へ向け、芸術的演奏表現を目指していくと同時に、高度な作品研究や指導能力を高めます。

声楽・ピアノ・ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・フルート・オーボエ・クラリネット・ファゴット・サクソフォン・ホルン・トランペット・トロンボーンを専修楽器として学びます。「主専実技」は「Ⅰ」から「Ⅳ」までを順に履修し、ハイレベルな演奏能力を身につけることができる教育課程を編成します。また、その実技内容に関連した理論と副専実技を学ぶことができ、高度な技術力と芸術性溢れる演奏家を育成します。

教育課程全般を通じて、少人数の学科である特徴を活かした教育・指導を行い、学生の理解を高めます。

卒業時の卒業演奏をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

《応用音楽学科》

武庫川女子大学音楽学部応用音楽学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

音楽を演奏するだけではなく、医療・福祉・音楽マネジメント・音楽教育など様々な分野において活用し、音楽と社会をつなぐ専門家を育成するため、音楽に関わる分野を総合的に学習し、実践力を身につけることができる教育課程を編成します。基礎教育科目では、基本的な情報スキル科目と文献研究やコミュニケーションに必要な英語科目を設定し、また、広く社会の動静を知り、関心を高めるための科目履修を必須とします。専門教育科目では、ピアノ・声楽および実用的楽器の実技、合唱・合奏のアンサンブル技術やその指導法、また、医学や心理学・文化事業など音楽を活用していく上で必要な科目や実習関連科目を体系化しています。共通教育科目では、学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能を修得できます。

講義や演習科目の予習・復習をはじめ、実技科目では演奏技能向上に向けた自主練習を行うよう、また、日頃から演奏会の鑑賞などによって常に音楽に触れるよう指導します。評価については科目によって異なりますが、学期末試験および授業中の小テスト・レポートその他も含めた総合評価を取り入れ、特に実技においては複数の教員の総合評価の平均を評価点として公正を期します。

1年次…音楽を応用活用していく上で基本であるピアノおよび声楽実技の基礎を学ぶと同時に、音楽の基礎であるソルフェージュや和声法、また音楽療法・音楽活用の導入教育を行います。

2年次…実技科目を継続するほか指揮法、伴奏法など学びの幅を広げます。また、音楽療法・音楽活用についての理解を深めます。演習科目において音楽の専門的研究を深め、表現・活用するための論理的思考力・コミュニケーション能力の向上を図ります。

3年次…音楽療法と音楽活用の各専修のゼミで、卒業論文に向けた調査・研究の基礎を固めます。上級学年となり、より発展的な講義・演習科目において、それぞれの専門領域に必要な知識・技能を深めます。

4年次…音楽療法・音楽教育・生涯学習・音楽関連の文化事業などから研究テーマを各自で設定し、集大成としての卒業論文を執筆するための研究過程において、知識を深めます。

教育課程全般を通じて、少人数の学科である特徴を活かした教育・指導を行い、学生の理解を高めます。

卒業時に提出する卒業論文をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

演奏学科

武庫川女子大学音楽学部演奏学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、音楽に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	幅広い教養と音楽に関する基礎知識および専門実技の基礎技術を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	芸術を深く愛する心と柔軟な感性を持ち、高度な専門的教養と演奏技術の習得に向けて研鑽を積む積極性を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	自ら考え人に感銘を与える高い芸術性を希求し、国際感覚を備えた音楽に関する専門家を目指す意欲を有している。

応用音楽学科

武庫川女子大学音楽学部応用音楽学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、音楽に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	音楽に関する基本的な知識と演奏技術を備え、高等学校等での各教科等における基礎学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	音楽と人間に関わる幅広い領域に興味関心を持ち、音楽を通して社会に寄与したいという熱意を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	多様な人々と協同して学ぶ態度を備え、本学科での学修を通して得た知識や技能を活かした職業に就き、それぞれの分野において活躍し、社会に貢献したいという意志を持っている。

学部等名 薬学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/muko.jolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)

(概要) 薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。 薬学科は、薬剤師として高度な臨床能力と実践力を有し、医療人としての使命感を持ち、病院・薬局などの医療機関をはじめ、薬の専門家としてあらゆる場面で活躍できる有為な女性を養成することを目的とする。 健康生命薬科学科は、健康科学、生命科学を重視した薬科学教育によって、研究機関、医薬品関連業界、環境衛生行政など、薬と健康に関連した多彩な分野で社会に貢献できる有為な女性を養成することを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
(概要) 《薬学科》 武庫川女子大学薬学部薬学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 190 単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく、以下に示すような高度な専門知識と臨床能力、及び、医療をはじめとする多様な分野で社会貢献できる資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（薬学）の学位を授与します。		
知識	1	生きる力の源となり、多様化・複雑化する社会を理解するための豊かな教養とデジタル社会における基盤的リテラシーを身につけている。
	2-1	薬剤師に求められる専門性を発揮するための科学的根幹となる基礎薬学の知識を修得している。
	2-2	責任ある薬物治療を実践するための基盤となる医療薬学、薬物治療の個別最適化を実践するための臨床薬学に関する知識を修得している。
	2-3	健康の維持・増進と環境衛生に貢献するために必要な衛生薬学の知識を修得している。
姿勢	3-1	生命の尊厳に関する深い認識をもち、薬剤師としての法的責任を理解し、使命感と責任感、患者・生活者の権利を尊重する倫理観を備えている。
	3-2	患者・生活者の立場と置かれた状況を把握し、医療人として利他的な態度で他者を尊重する姿勢を備えている。
	4	医療・福祉・公衆衛生における課題を見出し、解決するための科学的な視点と失敗を恐れず挑戦する姿勢を備えている。
	5	進歩する医療や科学について、自己および他者と共に研鑽しながら生涯にわたり学び続ける意欲と姿勢を備えている。
行動	6	的確な医薬品の供給、状況に応じた調剤、服薬指導、患者中心の処方提案等を科学的根拠に基づいて実践する技能を備えている。
	7	社会貢献とキャリア形成につながる基礎薬学的な科学技能を身につけ、新たな価値を創造する力を備えている。
	8-1	患者・生活者、医療者と良好なコミュニケーションをとり、考えや発想が互いに共感できるような信頼関係を築く行動力を備えている。

	8-2	多職種連携を構成する人々の役割を理解し、多様な人と協働して、患者・生活者中心の医療・福祉・公衆衛生を実践する行動力を備えている。
《健康生命薬科学科》 武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し学士（薬科学）の学位を授与します。		
知識	1	多様化・複雑化する社会を理解するための幅広い教養、語学・ライティング力、デジタル社会における基盤的リテラシーを身につけており、併せて健康や生命に直接関わる医療や薬科学研究に携わるに相応しい豊かな社会性・人間性を備えている。
	2	薬科学領域に関する深い専門的知識を備えている。
姿勢	3	人と共感する姿勢とともに、次世代を担う薬科学研究者としての責任感と社会に貢献する意識をもち、健康や生命に関する法令遵守の必要性を理解している。
	4	健康や医療における課題を主体的に探求し、未知の領域に挑戦する姿勢を備えている。
	5	社会の変化に対応し、薬科学研究を推進するため、新たな課題や困難の克服に柔軟に取り組み、真摯に学び続ける姿勢を備えている。
行動	6	科学的根拠に基づいた論理的思考力を有しており、薬科学領域において自らの行動・思考により得られた発見を相手に伝える能力を備えている。
	7	薬科学領域における知識・技能から、社会が必要とする新しい発想を生み出し、その発想を形にする意欲と能力を備えている。
	8	薬学研究や医療に関わる際に必要となる、多職種の人々と協働するためのコミュニケーション能力を備えている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html）		
（概要） 《薬学科》 武庫川女子大学薬学部薬学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 薬学科のカリキュラムでは、共通教育科目・基礎教育科目に続いて、薬剤師教育カリキュラムのガイドラインである「薬学教育モデル・コア・カリキュラム」（令和4年度改訂版）に準拠した科目と本学独自の科目が有機的に配置されています。 1）1年次は、学習習慣の確立を重視し、共通教育科目および基礎教育科目により情報リテラシーを含む基礎的科学力を養い、高校から大学への学びをスムーズに繋げるとともに、早期臨床体験を取り入れ、薬剤師への志向と学修意欲の向上を図ります。 2）1～4年次は、薬学に必要な基本的な科学知識・技能を養うための基礎薬学を理解した後、薬物治療の基盤となる医療薬学と健康の維持・増進と環境衛生に関わる衛生薬学を学びます。また、薬学基礎実習を通して、科学者としての姿勢と行動力も養います。		

3) 4年次の臨床事前学習、5年次の病院および薬局での臨床実習、臨床実習後演習を通じて臨床薬学を学び、薬剤師として医療に貢献できる知識と、医療人に必要な姿勢と論理的に考えを伝え多様な人々と協働する力を養います。

4) 4～6年次は、卒業研究により、失敗を恐れず困難に対応して薬学的課題に取り組む姿勢、倫理性、問題発見・解決能力、論理的な思考力、プレゼンテーション力を養います。また、薬学知識の統合と、個々のキャリア形成を養うための知識や技術を身につけます。

5) 全学年を通して、語学力および薬剤師に必要なコミュニケーション力と、医療における多職種連携を理解・実践するために必要な協調性を養います。また、医療倫理と薬剤師に関わる社会の仕組みや法規制を学び、地域における保健・医療・福祉での個人情報やデータの取扱い、地域連携などを学びます。

教育課程全般を通じて、通常の講義だけでなく、実習、双方向型授業、問題解決型演習といった教育手法を活用し、学生の理解を高めます。年度終了時に、客観試験と、自己評価を取り入れたパーソナルポートフォリオを用いて学修の達成度を振り返り、次年度の学習意欲に繋がります。

本教育課程の共通教育科目、基礎教育科目、基礎薬学科目、医療薬学科目、衛生薬学科目の講義科目については、論述試験、客観試験と課題レポートによって習熟度を評価します。実習科目については観察記録、レポート、成果物によって主に技能や態度を評価します。臨床薬学科目は、論述試験、客観試験、臨床に関する実地試験や観察記録によって評価します。卒業研究は、年度毎にポートフォリオによって達成度を評価し、卒業研究発表・論文作成をもって総括的評価を行います。

《健康生命薬科学科》

武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

高度な薬学的知識と科学的思考力を身につけ、教養科目・語学教育科目・基礎科学科目に続いて、薬科学の専門的な知識・技能を習得するために、卒業後の多様な職種への進路を見据えた基盤となる履修モデルコースを提供し、これに準拠した科目編成を実施します。

1) おもに1～2年次は、初年次教育を重視し、教養教育科目・基礎的科学力と語学力および薬科学の基礎を学び、卒業後の進路への志向と学修意欲の向上を図ります。

2) おもに1～2年次は、講義科目に加えて、実験・実習で専門分野の研究者・技術者に求められる技能も習得し、研究における展開力を養います。さらにキャリア形成につながる知識を身につけます。

3) おもに2～3年次は、モデルコースに準拠した専門科目を学習することにより、薬科学について高度な専門的知識を修得し、研究テーマを選択するための基盤を養います。

4) 3～4年次は、研究室での研究を通して、選択した専門分野の研究者・技術者に求められる知識・技能・態度を習得し、研究における展開力をさらに養います。

5) 教育課程全般を通じて外国語を学習することにより、外国語によるコミュニケーションならびにプレゼンテーションを円滑に進めるための基盤を養います。

教育課程全般を通じて、演習、実習、双方向性のアクティブラーニングを取り入れた教

育方法を活用し、学生の理解を深めます。

また、教育課程の評価については、卒業年次に提出する卒業研究論文をもって、教育課程に通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

薬学科

武庫川女子大学薬学部薬学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、薬学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	上記の学力として、医薬品や病態・薬物治療の理解を助ける化学または生物の学力を重視するが、数学、国語、英語の基礎学力も修得していることが望ましい。
	患者・生活者心理の理解の基本となる幅広い教養を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	将来、薬の専門家として、医療の発展に貢献したいという意欲を有している。
	医療人としての倫理観、思いやりと協調性、コミュニケーション能力を育くんで、健康・福祉に携わる者として社会貢献したいという意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	自ら学ぼうとする強い意欲、地道に努力する勤勉さを有している。
	科学的な思考力と問題提起・解決能力を身につけようとする意欲を有している。

健康生命薬科学科

武庫川女子大学薬学部健康生命薬科学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、薬科学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	科学的な思考力をもって問題解決に取り組む能力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	主体性と協調性をもって研究に取り組み、研究成果を通して社会に貢献したいという意志がある。研究者や医療人として必要な知識や技能を修得するための積極的な学修姿勢を有している。 中学・高等学校の理科教員として、後継者育成活動に寄与したいという意志がある。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	能動的な学習態度を身につけており、自己研鑽を継続できる。 他者の価値観を尊重し、良好な関係を築くための基本的なコミュニケーション能力と表現力を有している。

学部等名 環境共生学部		
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）		
（概要） 環境共生学部環境共生学科は、幅広い視野・教養・科学的知見に支えられた分析思考力・豊かな経験知・多様な他者との共感力を活用して、地球環境・自然環境問題に関わる諸課題を解決する計画を立案し実践できる人材の養成を目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《環境共生学科》 武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（環境共生学）の学位を授与します。		
知識	1	環境共生社会の実現に向けた基礎的知識や汎用的な技能に加えて英語・IT など基礎的リテラシーを有している。
	2	環境を構成する基盤的な要素の理解に基づいてキャリアや社会貢献につながる専門的知識を修得し、利用することができる。
姿勢	3	豊かな人間性と自信を備え、多様な思考や価値観を持つ他者を理解・尊重しつつ、協働に貢献する姿勢を有している。
	4	環境問題を通して社会に貢献するために、失敗を恐れず新しい課題を見つけ出し、挑戦する姿勢を有している。
	5	社会貢献における困難に対して、自らの可能性を信じることと他者からの支援を仰ぐことを通じて視野を広げ、より良い選択を探る姿勢を有している。

行動	6	様々な事象を定量的・論理的に解析し、その結果を科学的根拠に基づいて分かりやすく表現するコミュニケーション能力を有している。
	7	持続可能な共生社会の実現に向けて、柔軟な発想や視点の転換により新たな価値を生み出すことで、諸課題の解決につなげることができる。
	8	志向性・価値観の異なる他者へ主体的に働きかけ、協働を通して互いの価値を認め、信頼関係を構築することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《環境共生学科》 武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 共通教育科目では、学科の基礎・専門教育科目に加えて、幅広い教養や汎用的知識・技能を修得できます。 体験や問題意識を出発点とした課題発見・課題解決能力の養成のために、環境管理技術、生物工学、エネルギー・資源・化学物質の利用、ソーシャルデザインなどの、実用・応用を見据えた科目群を、自ら組み合わせ、学びを設計しながら各科目を修める能力を習得します。定期的なフィードバックにより、卒業後の進路の志を固めながら、目標を持った科目履修を行えるよう指導します。 一連の課題解決型学習として、1年次のフィールド・環境施設実習、1年次後期から3年次前期にかけて継続的に行う社会連携プロジェクト（演習）、4年次の卒業研究・活動等を通じて、経験知を出発点とした課題発見・課題解決思考能力の養成を、1年次の基礎実験、2年次のラボローテーション実習、3年次の環境技術実験、4年次の卒業研究・活動などにより、課題解決実行力を養成します。		
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html） （概要） 武庫川女子大学環境共生学部環境共生学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。		
知識	社会を理解し、環境共生学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。	
	具体的には自然科学に基づく生物学や化学などの理解力、様々な事象を定量的、確率的に表す数学的能力、国語や英語によるコミュニケーションおよび論理的思考の基本となる能力を有している。	
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦する姿勢を有している。	
	異なる学問分野の考え方を組み合わせるなどの柔軟な思考力や、自身の興味がある分野の高い専門性と技術を身につけて、自然環境の利用や保全に関する計画・デザインを行うことで、持続可能な社会の構築に貢献しようとする意欲を有している。	

行動	自ら考えて表現すること、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	社会が抱える環境問題などの課題に目を向け、課題解決のための実践的な活動に取り組もうとする意欲を有している。

学部等名 看護学部		
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf ）		
（概要） 看護学部看護学科は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。		
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《看護学科》 武庫川女子大学看護学部看護学科では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って127単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づき教育目標に沿って次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（看護学）の学位を授与します。		
知識	1	看護の対象者の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を修得している。
	2-1	生活者としての看護の対象者を支援するために必要な専門的知識を修得している。
	2-2	生活者としての看護の対象者を支援するために必要な専門的スキルを修得している。
姿勢	3-1	自らの価値観に向き合いながら、看護の対象者の価値観を尊重し、生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を有している。
	3-2	自らの価値観に向き合いながら、看護の対象者の価値観を尊重したコミュニケーション能力を身につけている。
	4-1	今後の社会の変化を予測しながら、プロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。
	4-2	看護師として、試行錯誤しながら、生涯にわたって自分を高めていこうとする意思・意欲を持っている。
	5	看護を取り巻く様々な課題に柔軟に対応するためのしなやかな姿勢を身につけている
行動	6-1	看護の対象者の生活や健康を支える身体心理社会的要因についての情報を収集し、論理的思考力を用いて分析することができる。
	6-2	援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を説明することができる。
	7	看護の対象者に起こりうる事態を予測し、問題解決能力を用いて、最善策を導き出すことができる。

	8	看護の対象者に関わる人々との連携の必要性を理解し、建設的な関係を築くことができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html ）		
（概要） 《看護学科》 武庫川女子大学看護学部看護学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。 1. 「共通教育科目」 ・人の生活や生命、それを取り巻く社会や文化・環境といった幅広い教養を学び視野を広げる科目 ・看護を行う上で必要不可欠な科学的な思考、論理的な思考力、コミュニケーション能力を身につける科目 ・女性として社会人としてキャリアを積み上げていくために必要な基本的態度を身につける科目 2. 「基礎教育科目」 ・人の身体を理解し、健康や病気、障害に関する観察力や判断力を養うとともに、看護を行うときの根拠や必要性を考えることができる科目 ・人の健康や障害の状態に応じて活用できる保健医療福祉サービスを理解するための科目 ・看護を学ぶ基礎として、保健医療の関連情報の分析や国際的な視野で情報を得るための情報活用技術や英語力を身につけるための科目 3. 「専門教育科目」 ・高度先進医療から在宅医療に至るまでの治療の目的を理解する科目 ・生活者としての人を支えるために必要となる知識を学修する科目 ・人の価値観を尊重したコミュニケーション能力を学修する科目 ・生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を養う科目 ・援助に必要な看護技術を学修する科目 ・必要な看護実践を計画し、多職種間連携を理解し、看護実践能力を育成する科目 教育課程全般を通じて、講義・演習・実習といった授業形態により、看護学の知識・技術・態度の要素を統合的に養います。 各専門科目それぞれで、対象者の人権尊重などの倫理的な視点および行政・施策に関する内容が含まれます。 また、教育課程については、統合看護学実習と修了年次に提出する卒業論文、卒業論文の研究発表・討議をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。 こうした看護学の学習により、本学科が目指すところである援助の対象者を「生活者」と捉え、生活の質（QOL）と治癒の促進を考慮しながら科学的な根拠に基づいた看護を導くための基盤づくりを可能とします。 なお、本学科では、所定の授業科目を修得することで、看護師の国家試験受験資格を得ることができます。		
入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ		

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html)

(概要)

武庫川女子大学看護学部看護学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、看護学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
	論理的思考力を身に付けるために必要な読解力および知識を活用する力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
	看護の実践家として社会に貢献する意欲を有している。
	自ら進んで学習を続ける意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。
	多様な人々の気持ちや考え方を尊重し、コミュニケーションを行うことへの意欲を有している。

学部等名 経営学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/mukojolife/pdf/dai_gakusoku.pdf)

(概要)

経営学部経営学科は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。

卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>)

(概要)

《経営学科》

武庫川女子大学経営学部経営学科では、本学の定める修業年限以上在学し、所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、「MUKOGAWA COMPASS」に基づく次の資質・能力を身につけた者に対して、卒業を認定し、学士（経営学）の学位を授与します。

知識	1	経営学に関する基本的な知識を有し、多様化・複雑化する社会における経営課題を的確に理解できる。
	2	自らが目指す将来キャリアで活躍するために必要な専門的知識を習得している。

姿勢	3	自他を尊重し、他者と協力的な関係を構築するコミュニケーション能力を習得している。
	4	広い視野を持ち、自身の特性・視点を活かして考え、イニシアティブをとることができる。
	5	自らの暮らしを環境や状況にあわせて柔軟にデザインすることができる。
行動	6	グローバルな視点とローカルな視点の双方から論理的に考え、伝えることができる。
	7	社会で活躍するための生活様式と価値観を備え、新たな価値の創造に強く動機づけられている。
	8	多様な生活様式と価値観を理解し、人と協働する意欲を備えている。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
<https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2025/index.html>）

（概要）

《経営学科》

武庫川女子大学経営学部経営学科では、本学科の定めるディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような方針に基づき、カリキュラムを編成します。

本学科のカリキュラムでは、以下に示す科目分類を設け、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、個々の授業を通じて学生の資質・能力を高めます。

1. 共通教育科目

幅広い教養と的確な判断力を養うとともに、心の豊かな人間性の涵養を図ることを目的とした全学共通教育科目を選択科目として初年次から履修できるようにします。学生は自らの選択のもと、主体的に学びます。また、総合大学の特長を活かし、様々な専門分野を背景に持つ学生同士が、答えの無い課題に取り組む授業を展開します。

2. 基礎教育科目

専門教育科目への導入的役割と専門教育での学びの基礎をつくる科目として、基礎教育科目を1年次と2年次に配置します。全学的に実施している「初期演習」では、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につける他、学生相互の豊かで円滑な人間関係の基礎を養います。「初期演習」以外の科目では、専門分野の学びの基礎となる知識の修得と倫理感を育成する教育を行います。

3. 専門教育科目

2年次後期以降には、高度な知識・態度・方法論を備えた人材養成のコアとなる専門科目を配置するとともに、マイクロクレデンシャルを導入し、学生が目指す将来キャリアに向けて、学修内容を6分野に整理し、難易度ごとに細分化した12の学修歴を残せるように構成します。これにより、学生に対して修得すべき学びの方向を明確に示すとともに、修得した知識・スキル・経験についてはデジタル証明であるオープンバッジの発行が可能になります。また、3年次以降は、高度な学びの準拠集団を構成し、総合的な実践力を養う教育・研究の場として「専門演習」を必修科目として配置します。また、学生が大学での学びを集大成し、後進への知見を残すものとなる「卒業研究」を必修科目として4年次に配置します。

教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで科目間の順次性・体系性を担保します。また、開講科目に設定される知識と技術

を修得し、それらを活用するための能力を育成するために、授業の形態は講義だけにとどまらず、学生を能動的な姿勢に導く教育手法を活用します。
各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、あらかじめ評価指標を明示し、適切・公正な評価を実施します。また、卒業研究においては学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~nyushi/admission_policy/index.html）

（概要）

武庫川女子大学経営学部経営学科では、「立学の精神」と「MUKOGAWA COMPASS」に共感し、これらに基づいた、本学科のディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）を理解したうえで、本学科のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）に則した教育課程を学ぶために必要な、以下に掲げる学力と意欲を有する女性の入学を受入れます。

知識	社会を理解し、経営学に関する専門性を身につけるために必要な基礎学力を有している。
姿勢	自他を尊重し、失敗を恐れず挑戦するしなやかな姿勢を身につける意欲を有している。
行動	自ら考えて表現すること、新たな価値を創造し、多様な人々と協働することへの意欲を有している。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	4 人	—					4 人
文学部	—	25 人	14 人	7 人	0 人	0 人	46 人
教育学部（教員養成以外）	—	17 人	12 人	5 人	0 人	1 人	35 人
心理・社会福祉学部	—	13 人	7 人	6 人	3 人	1 人	30 人
健康・スポーツ科学部	—	17 人	8 人	2 人	0 人	4 人	31 人
生活環境学部	—	10 人	9 人	2 人	0 人	4 人	25 人
社会情報学部	—	10 人	8 人	1 人	1 人	1 人	21 人
食物栄養科学部	—	21 人	7 人	4 人	2 人	12 人	46 人
建築学部	—	14 人	6 人	3 人	0 人	1 人	24 人
音楽学部	—	10 人	4 人	0 人	0 人	1 人	15 人
薬学部（6 年制）	—	22 人	5 人	5 人	3 人	15 人	50 人
薬学部（4 年制）	—	6 人	2 人	2 人	1 人	6 人	17 人
環境共生学部	—	10 人	4 人	2 人	0 人	5 人	21 人
看護学部	—	11 人	6 人	5 人	20 人	0 人	42 人
経営学部	—	8 人	3 人	2 人	2 人	1 人	16 人
教養部	—	6 人	4 人	2 人	0 人	1 人	13 人
附置研究所	—	13 人	1 人	0 人	2 人	3 人	19 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
0 人			458 人				458 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.edusys.jp/mukogawa-u/tis/public/search					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長のもと、委員長・副委員長以下を各学科、研究科及び事務部門等から選出された委員で構成する「F D推進委員会」を中心として、教職員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上に資する全学的な取り組みを行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	430 人	378 人	87.9%	1,837 人	1,574 人	85.7%	50 人	21 人
教育学部	240 人	266 人	110.8%	1,025 人	1,056 人	103.0%	25 人	16 人
心理・社会福祉学部	220 人	250 人	113.6%	660 人	702 人	106.4%	0 人	0 人
健康・スポーツ科学部	280 人	268 人	95.7%	1,040 人	976 人	93.8%	0 人	0 人

生活環境学部	195 人	156 人	80.0%	880 人	925 人	105.0%	20 人	22 人
社会情報学部	180 人	181 人	100.6%	540 人	543 人	100.6%	0 人	0 人
食物栄養科学部	280 人	223 人	79.6%	1,150 人	1,101 人	95.7%	15 人	4 人
建築学部	85 人	99 人	116.5%	340 人	368 人	108.2%	0 人	0 人
音楽学部	50 人	36 人	72.0%	200 人	135 人	67.5%	0 人	0 人
薬学部（6 年制）	105 人	109 人	103.8%	1,050 人	801 人	76.3%	0 人	0 人
薬学部（4 年制）	60 人	66 人	110.0%	200 人	215 人	107.5%	0 人	0 人
環境共生学部	120 人	31 人	25.8%	120 人	31 人	25.8%	0 人	0 人
看護学部	80 人	85 人	106.3%	320 人	351 人	109.7%	0 人	0 人
経営学部	200 人	224 人	112.0%	800 人	856 人	107.0%	0 人	0 人
合計	2,525 人	2,372 人	93.9%	10,162 人	9,634 人	94.8%	110 人	63 人
（備考）								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
文学部	497 人 (100%)	12 人 (2.4%)	450 人 (90.5%)	35 人 (7.0%)
教育学部	245 人 (100%)	1 人 (0.4%)	238 人 (97.1%)	6 人 (2.4%)
健康・スポーツ科学部	172 人 (100%)	1 人 (0.6%)	164 人 (95.3%)	7 人 (4.1%)
生活環境学部	332 人 (100%)	2 人 (0.6%)	317 人 (95.5%)	13 人 (3.9%)
食物栄養科学部	207 人 (100%)	4 人 (1.9%)	201 人 (97.1%)	2 人 (1.0%)
建築学部	86 人 (100%)	66 人 (76.7%)	18 人 (20.9%)	2 人 (2.3%)
音楽学部	31 人 (100%)	1 人 (3.2%)	27 人 (87.1%)	3 人 (9.7%)
薬学部（6 年制）	167 人 (100%)	0 人 (0.0%)	151 人 (90.4%)	16 人 (9.6%)
薬学部（4 年制）	34 人 (100%)	7 人 (20.6%)	24 人 (70.6%)	3 人 (8.8%)
環境共生学部	0 人 (100%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
看護学部	80 人 (100%)	4 人 (5.0%)	73 人 (91.2%)	3 人 (3.7%)
経営学部	172 人 (100%)	2 人 (1.2%)	161 人 (93.6%)	9 人 (5.2%)
合計	2023 人 (100%)	100 人 (4.9%)	1824 人 (90.2%)	99 人 (4.9%)
（主な進学先・就職先）（任意記載事項） （進学先）武庫川女子大学大学院、大阪公立大学大学院、関西大学会計専門職大学院 （就職先）兵庫県、株式会社アインホールディングス、大阪市、大阪府、日本調剤株式会社、神戸市、株				

式会社スギ薬局、堺市、総合メディカル株式会社、大阪大学医学部附属病院、医療法人協和会、横浜市、日本生命保険相互会社、学校法人兵庫医科大学、株式会社Kスカイ
(備考) 就職先は7人以上の就職実績があり、採用の多い順からピックアップ

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	461 人 (100%)	414 人 (89.8%)	30 人 (6.5%)	17 人 (3.7%)	0 人 (0.0%)
教育学部	222 人 (100%)	216 人 (97.3%)	3 人 (1.4%)	3 人 (1.4%)	0 人 (0.0%)
健康・スポーツ科学部	160 人 (100%)	149 人 (93.1%)	4 人 (2.5%)	7 人 (4.4%)	0 人 (0.0%)
生活環境学部	322 人 (100%)	299 人 (92.9%)	11 人 (3.4%)	12 人 (3.7%)	0 人 (0.0%)
食物栄養科学部	221 人 (100%)	198 人 (89.6%)	13 人 (5.9%)	10 人 (4.5%)	0 人 (0.0%)
建築学部	83 人 (100%)	80 人 (96.4%)	1 人 (1.2%)	2 人 (2.4%)	0 人 (0.0%)
音楽学部	32 人 (100%)	28 人 (87.5%)	0 人 (0.0%)	4 人 (12.5%)	0 人 (0.0%)
薬学部（6 年制）	196 人 (100%)	110 人 (56.1%)	57 人 (29.1%)	21 人 (10.7%)	8 人 (4.1%)
薬学部（4 年制）	30 人 (100%)	29 人 (96.7%)	1 人 (3.3%)	0 人 (0.0%)	0 人 (0.0%)
看護学部	84 人 (100.1%)	76 人 (90.5%)	5 人 (6.0%)	3 人 (3.6%)	0 人 (0.0%)
経営学部	170 人 (100%)	159 人 (93.5%)	7 人 (4.1%)	4 人 (2.4%)	0 人 (0.0%)
合計	1,981 人 (100%)	1,758 人 (88.7%)	132 人 (6.7%)	83 人 (4.2%)	8 人 (0.4%)
(備考) 2021 年度入学者（4 年制）2019 年度入学者（6 年制） ・修得単位や在学年数不足等で卒業延期になった学生は留年者数に含む ・除籍者は中途退学者数に含む					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)
<シラバス作成過程> 前年度 8 月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始 10 月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼 12 月 学長より各学科長にシラバス点検依頼（予告） 11 月～1 月 各教員シラバス作成 1 月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼 2 月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出

3月	教育支援システムでシラバス閲覧可能
当年度	
4月	ホームページで公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況（授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など）を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。 また、卒業又は修了の認定に当たっての基準については、 ① 卒業又は修了認定にあたり、本学の定める修業年限以上在学し、履修方法に従って卒業単位数以上を修得することが前提条件となる。 ② ①を前提条件として学科別のディプロマ・ポリシーにより、学生が身につけるべき能力・資質の目標を明示し、目標を達成した学生に対し、教授会の意見を聴いて学長が卒業の認定をする。卒業が認定されたものには、学士の学位を授与する。なお、ディプロマ・ポリシーはホームページで公表している。				
学部名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科	124 単位	有	49.5 単位
	歴史文化学科	124 単位	有	49.5 単位
	英語グローバル学科	124 単位	有	49.5 単位
	心理・社会福祉学科	124 単位	有	49.5 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有	49.5 単位
心理・社会福祉学部	心理学科	124 単位	有	49.5 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	49.5 単位
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	124 単位	有	49.5 単位
	スポーツマネジメント学科	124 単位	有	49.5 単位
生活環境学部	生活環境学科	124 単位	有	49.5 単位
	情報メディア学科	124 単位	有	49.5 単位
社会情報学部	社会情報学科	124 単位	有	49.5 単位
食物栄養科学部	食物栄養学科	124 単位	有	49.5 単位
	食創造科学科	124 単位	有	49.5 単位
建築学部	建築学科	128 単位	有	49.5 単位
	景観建築学科	128 単位	有	49.5 単位
音楽学部	演奏学科	124 単位	有	49.5 単位
	応用音楽学科	124 単位	有	49.5 単位
薬学部	薬学科	190 単位	有	49.5 単位
	健康生命薬科学科	124 単位	有	49.5 単位
環境共生学部	環境共生学科	124 単位	有	49.5 単位

看護学部	看護学科	127 単位	有	49.5 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	44.5 単位
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科 (1 年次)	911, 000 円	200, 000 円	206, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	935, 000 円	円	229, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	935, 000 円	円	209, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	935, 000 円	円	200, 000 円	教育充実費
	歴史文化学科 (1 年次)	911, 000 円	200, 000 円	206, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	935, 000 円	円	229, 000 円	教育充実費
	英語グローバル学科 (1 年次)	911, 000 円	200, 000 円	206, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	975, 000 円	円	229, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	975, 000 円	円	209, 000 円	教育充実費
	英語文化学科 (4 年次)	975, 000 円	円	200, 000 円	教育充実費
	心理・社会福祉学 科 (4 年次)	1, 035, 000 円	円	230, 000 円	教育充実費
教育学部	教育学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	236, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	269, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	249, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	1, 035, 000 円	円	240, 000 円	教育充実費
心理・社会 福祉学部	心理学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	236, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	259, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	239, 000 円	教育充実費
	社会福祉学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	236, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	259, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	239, 000 円	教育充実費
健康・スポ ーツ科学部	健康・スポーツ科学 科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	262, 000 円	教育充実費・野外実習費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	325, 000 円	教育充実費・野外実習費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	279, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	1, 035, 000 円	円	270, 000 円	教育充実費
	スポーツマネジメント学 科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	262, 000 円	教育充実費・野外実習費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	325, 000 円	教育充実費・野外実習費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	279, 000 円	教育充実費
生活環境 学部	生活環境学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	257, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	310, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	290, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	1, 035, 000 円	円	250, 000 円	教育充実費

社 会 情 報 学部	情報メディア学科 (4 年次)	1, 035, 000 円	円	250, 000 円	教育充実費
	社会情報学科 (1 年次)	1, 008, 000 円	200, 000 円	185, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 060, 000 円	円	279, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 060, 000 円	円	259, 000 円	教育充実費
食 物 栄 養 科学部	食物栄養学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	318, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	485, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 035, 000 円	円	461, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 035, 000 円	円	400, 000 円	教育充実費・実験実習費
	食創造科学科 (1 年次)	1, 013, 000 円	200, 000 円	310, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(2 年次)	1, 035, 000 円	円	483, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 035, 000 円		461, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 035, 000 円	円	400, 000 円	教育充実費・実験実習費
	建築学部				
	建築学科 (1 年次)	1, 140, 000 円	200, 000 円	388, 000 円	教育充実費・実験実習費
音 楽 学 部	(2 年次)	1, 160, 000 円	円	509, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 160, 000 円	円	489, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 160, 000 円	円	480, 000 円	教育充実費・実験実習費
	景観建築学科 (1 年次)	1, 140, 000 円	200, 000 円	388, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(2 年次)	1, 160, 000 円	円	509, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 160, 000 円	円	489, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 160, 000 円	円	480, 000 円	教育充実費・実験実習費
	演奏学科 (1 年次)	1, 395, 000 円	200, 000 円	339, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 440, 000 円	円	410, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 440, 000 円	円	390, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	1, 440, 000 円	円	330, 000 円	教育充実費
	応用音楽学科 (1 年次)	1, 395, 000 円	200, 000 円	359, 000 円	教育充実費・実務実習費
	(2 年次)	1, 440, 000 円	円	410, 000 円	教育充実費
	(3 年次)	1, 440, 000 円	円	390, 000 円	教育充実費
	(4 年次)	1, 440, 000 円	円	330, 000 円	教育充実費
薬学部	薬学科 (1 年次)	1, 529, 000 円	200, 000 円	372, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 532, 000 円	円	519, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 532, 000 円	円	499, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 532, 000 円	円	490, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(5 年次)	1, 532, 000 円	円	490, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(6 年次)	1, 532, 000 円	円	490, 000 円	教育充実費・実験実習費
	健康生命薬科学科 (1 年次)	1, 151, 000 円	200, 000 円	380, 000 円	教育充実費
	(2 年次)	1, 170, 000 円	円	559, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(3 年次)	1, 170, 000 円	円	539, 000 円	教育充実費・実験実習費
	(4 年次)	1, 170, 000 円	円	530, 000 円	教育充実費・実験実習費

環境共生学部	環境共生学科 (1年次)	1,120,000円	200,000円	308,000円	教育充実費
看護学部	看護学科 (1年次)	1,372,000円	200,000円	337,000円	教育充実費
	(2年次)	1,367,000円	円	357,000円	教育充実費
	(3年次)	1,367,000円	円	337,000円	教育充実費
	(4年次)	1,367,000円	円	328,000円	教育充実費
経営学部	経営学部 (1年次)	815,000円	200,000円	206,000円	教育充実費
	(2年次)	1,000,000円	円	220,000円	教育充実費
	(3年次)	1,000,000円	円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	1,000,000円	円	200,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教務部では、教育支援システムの運用を通して、履修、授業運営、試験、成績、学籍に関するサポートと、学修に関わる情報提供を行い、学生が専門分野の知識や幅広い教養を身に付けることができるように支援している。国際センターは、留学プログラムの実施や留学相談、外国語運用能力向上のための支援を行っている。また、海外からの留学生のサポートや交流イベントを実施している。附属図書館では、教育・研究活動を支援するために学術情報基盤の構築を遂行。館内資料・施設の利活用促進に加え、電子情報の提供・利用促進も図っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、入学直後から継続的に進路選択に関する支援を行っている。タイムリーな情報提供と個別就職相談などのきめ細かい指導で、就職活動をサポートしている。学校教育センターは、教員免許状・保育士資格の取得、採用選考試験受験や就職をサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 健康サポートセンターは、学生の健康の保持増進、疾病の早期発見や予防を支援するとともに、将来の生活習慣病予防のための取り組みに力を入れている。学生相談センターでは、学生相談およびグループ・プログラム等を通して、学生生活におけるこころの健康と成長を目指した支援を行っている。学生サポート室では、修学支援として、授業や学生生活で困りごとのある学生の相談を受け、すべての学生が等しい条件の下で学べるよう必要なサポートを実施している。学内外の関係部署との連携や、サポートスタッフ学生の募集・育成も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html
備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。

(別紙)

- ※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。
- ※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F128310108883
学校名（〇〇大学 等）	武庫川女子大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 武庫川学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		885人（ ）人	866人（ ）人	921人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	476人	447人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	225人	224人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	133人	122人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	13人	20人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	38人	53人	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				13人（ ）人
合計（年間）				934人（ ）人
(備考)				

- ※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。
- ※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	-	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	-	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	-	人	人
計	14人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学(3月未満の期間のものに限る。)又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	27人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学(修業年限が2年のもの)に限り、認定専攻科を含む。)、高等専門学校(認定専攻科を含む。))及び専門学校(修業年限が2年以下のものに限る。))	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単 位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
GPA等が下位4分の1	105人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意 欲が低い状況	-	人	人
計	106人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。